

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公開番号】特開2010-20078(P2010-20078A)

【公開日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-004

【出願番号】特願2008-180212(P2008-180212)

【国際特許分類】

G 09 G 3/30 (2006.01)

G 09 G 3/20 (2006.01)

H 01 L 51/50 (2006.01)

H 05 B 33/08 (2006.01)

【F I】

G 09 G 3/30 J

G 09 G 3/20 6 1 1 H

G 09 G 3/20 6 3 2 Z

G 09 G 3/20 6 4 2 A

G 09 G 3/20 6 4 2 J

G 09 G 3/20 6 4 2 P

G 09 G 3/20 6 7 0 J

G 09 G 3/20 6 2 4 B

G 09 G 3/20 6 8 0 V

H 05 B 33/14 A

H 05 B 33/08

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月11日(2011.7.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

発光素子を含む複数の画素と、

外部から供給される第1の映像信号の積算値あるいは各画素を流れる電流量の変化から前記複数の画素それぞれの劣化特性を取得する取得手段と、

前記取得手段により取得した劣化特性に基づいて、劣化の程度が異なる画素が互いに隣接する境界部を検出する検出手段と、

前記検出手段により検出された前記境界部の周辺の複数の画素を同じ第1の映像信号で発光させた際に、前記境界部の周辺における発光輝度の変化が緩やかになるように、前記境界部周辺の前記画素に供給する前記第1の映像信号の補正量を算出する算出手段と、

前記算出手段により算出された補正量に基づいて前記第1の映像信号を第2の映像信号に変換する補正手段と、を有し、

前記第2の映像信号に基づいて前記複数の画素により映像を表示する表示装置。

【請求項2】

前記検出手段が、各画素について隣接する画素との前記劣化特性の差分を演算することを特徴とする請求項1に記載の表示装置。

【請求項3】

前記検出手段が、各画素について隣接する前記劣化特性の2階微係数を演算することを特徴とする請求項1に記載の表示装置。

【請求項4】

前記複数の画素は、赤色を発光する画素と、緑色を発光する画素と、青色を発光する画素と、を有し、

前記取得手段と、前記補正手段と、前記検出手段と、前記算出手段とは、前記赤色、緑色、青色のうち少なくとも一の色を示す複数の画素に対して設けられていることを特徴とする請求項1乃至請求項3のいずれか1項に記載の表示装置。

【請求項5】

前記取得手段と、前記補正手段と、前記検出手段と、前記算出手段とは、前記複数の画素からなる画素領域の一部に対応して設けられている請求項1乃至4のうちのいずれか1項に記載の表示装置。

【請求項6】

発光素子を含む複数の画素を有し、該複数の画素により映像を表示する表示装置の駆動方法において、

外部から供給される第1の映像信号あるいは各画素を流れる電流量の変化から前記複数の画素それぞれの劣化特性を取得する取得工程と、

取得した劣化特性に基づいて、劣化の程度が異なる画素が互いに隣接する境界部を検出する検出工程と、

検出された前記境界部の周辺の複数の画素を同じ第1の映像信号で発光させた際に、前記境界部周辺における発光輝度の変化が緩やかになるように、前記境界部周辺の前記画素に供給する前記第1の映像信号の補正量を算出する算出工程と、

算出された前記補正量に基づいて前記第1の映像信号を第2の映像信号に変換する補正工程と、前記第2の映像信号に基づいて前記複数の画素に映像を表示する表示工程と、有することを特徴とする表示装置の駆動方法。

【請求項7】

前記複数の画素のうち一部の画素は、一定の画像を表示可能な固定パターン表示領域を形成しており、

前記検出手段及び前記算出手段は、前記固定パターン表示領域に設けられた前記一部の画素に対して行われることを特徴とする請求項6に記載の表示装置の駆動方法。